

平成30年度

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズわくわく	代表者	理事長 飯塚陵子	法人・ 事業所 の特徴	『あってよかった わくわく』を法人スローガンに利用者に寄り添い介護保険や助け合い事業を組み合わせ柔軟な支援をおこなっている。 今年12年目を迎え、ベテラン職員も多く利用者様が楽しめる企画や脳トレ、筋力アップの個別ケアなど積極的な働きかけを行っている。小規模多機能の特徴である柔軟な対応をこころがけ、急なご要望に真摯に向き合っています。 自慢の食事は利用者様にとっても好評をいただいている。毎月、歌声喫茶や習字教室の開催で近隣の方も参加して利用者様との交流ができています。地域との連携強化を行いながら地域に開かれた事業所をめざしている。
事業所名	わくわくの里	管理者	飯塚 陵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	1人	1人	1人	2人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	全職員が取り組めるよう計画的に進めていく。期間内にそれぞれが取り組みの時間を確保できるよう調整していく。	全職員がていねいに取り組むことができ、解釈の難しい項目についてはマンツーマンでの説明を行なった。	振り返りの時間はとても大切。次につながる対策を考えると良い。職員全員が取り組んでいることがよくわかる。	自己評価から見えてきた課題に対して具体的な取り組み方法を決定し、研修委員会の協力のもと進めて行く。
B. 事業所のしつらえ・環境	運営推進会議において事業所内のしつらえ、環境における取り組みを報告し実際に確認していただく。	会議場所を事業所として1年間行ったが、手狭さゆえに我慢いただいたと感じる。しかし、習字の作品や壁面飾り、利用者の作品も見えていただき普段の様子も直接目にさせていただき効果は大きかった。	6回の開催の内、数回は集会場を利用していいのではないかと。ゆったりとした中で話し合うことも良いことだ。実際の様子を見ることも大変よいことなので、半々で実施したらよい。	年間6回の内、2回は自治会集会場を利用させていただく。事業所内も引き続き見学して様子を直接見ていただく。
C. 事業所と地域のかかわり	近隣の『サロン』『おさそい会』など人の集まる場へ積極的に出向いていくようにする。	『サロン左馬』への訪問および里だよりの配布は、毎月行うことができ参加者の方々からの認知度はアップした。おさそい会へは、訪問できなかった。	継続し続けることが大事。顔なじみの関係を築いていくことは容易ではない。地域にむけての発信はすばらしいし、是非頼りになる場所であってほしい。	里だよりの配布継続と共に、サロンへの顔出しを多くの職員に担ってもらおう。職員全体が地域に関心を持ち関わりを深めていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の自宅に『あんしんカード』をおいていただき、最新の情報を更新していく。駐在担当者と顔なじみの関係を築いていく。	全利用者に設置はできず計画的に進めるための方策を示せなかった。更新時期も含め具体化できなかったことが反省点だ。	あんしんカードというすばらしいツールができていても周知度が低くうまく活用できていない。もっと、広く伝えていくべきだ。	あんしんカードの最新情報を全職員が利用者担当で受け持ち、責任をもってカード内容の記入およびチェックを行っていく。内容について職員間で共有していく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議に他の職員も参加できる体制を整えていき、より多くの意見が反映できるしくみを構築していく。	業務の中で他職員の参加を実行することが困難で1, 2回程度の参加にとどまった。	多くの職員が参加することは良いことだ。顔なじみの関係が期待できる。	参加職員の年間計画をたて、必ず参加する。まずは参加することを重要と考え、職員にも負担のないよう配慮する。
F. 事業所の 防災・災害対策	30年度から自治会の定例会にできる範囲で参加させてもらうようにする。 避難訓練を充実させていく。	今年度は実行に至らず、避難訓練の地域参加も実行できなかった。	近隣事業所の訓練には声がかかり参加している。声かけがあれば参加するので進めてください。実際の住人が参加するのは中々困難なのが実情のようだ。	自治会会長, 副会長の協力を仰ぎ避難訓練への参加協力をお願いする。訓練の中で出た課題や実施内容などをおたよりなどで近隣へ伝え周知していく。